愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	社会学		
担当者(Instructors)	石橋 康正	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義は、社会学の基本的な見方や考え方を知り、その視点から身近な事例を分析・解釈することを通じて、社会学的思考のエッセンスを身につけることを目的とする。社会学的思考で、常識や事実（とされるもの）を疑い、事象を多角的に読み解く力は、複雑な現代社会を理解する上で役に立つリテラシーだといえる。また、社会で生起する様々な現象に対して知的好奇心を持ち、自ら考え、伝える力の育成にもつなげていく。そのために、授業は講義形式を基本としつつも、対話を重視した授業運営とする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式で進める。 授業資料（スライドのPDF）の配布や小課題の提出等はTeamsを用いておこなう。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	イントロダクション	「社会」の性質ならびに社会学の学問的特徴を概説する。	□
第2回	近代化と社会変動	市民革命、産業革命、資本主義革命によって生じた人間活動の変化について学ぶ。	□
第3回	行為論（社会学の視点1）	社会の成り立ちを「行為」として捉える視点について学ぶ。	□
第4回	構造論（社会学の視点2）	社会の成り立ちを「構造」として捉える視点について学ぶ。	□
第5回	相互作用論（社会学の視点3）	社会の成り立ちを「相互作用」として捉える視点について学ぶ。	□
第6回	シカゴ学派社会学	アメリカにおける社会学の発展の基礎となった「シカゴ学派社会学」の調査研究について学ぶ。	□
第7回	国民と国籍	近代国民国家と国民意識の関わりを学びながら、人々のアイデンティティにも影響を及ぼす国籍制度の課題について考える。	□
第8回	家族と社会	近代化によって変容した家族の形態・性質を学びながら、現代家族が抱える問題について考える。	□
第9回	犯罪と社会	犯罪・非行を捉える社会学的視点および逸脱が生じるメカニズムに関する複数の理論について学ぶ。	□
第10回	労働と社会	日本と欧米の「働き方」の違いを通して、日本社会の構造や仕組み、課題について考える。	□
第11回	格差と社会	「階級」と「階層」の違いを歴史的に振り返りながら、「格差社会」の特徴と現代の日本社会における格差問題について考える。	□
第12回	消費と社会	近代化のなかで出現した「流行」に関する議論を起点として、20世紀初頭に成立した「消費社会」の特徴と展開について学ぶ。	□
第13回	環境と社会（1）	近代化によって生じた環境問題の展開過程をたどりながら、科学技術や企業の経営活動と環境問題との関わりについて考える。	□
第14回	環境と社会（2）	日本の公害問題の歴史をふりかえりながら、環境問題の構造や影響を分析するための社会学的理論・概念について学ぶ。	□
第15回	グローバリゼーション	グローバル化がもたらす経済・社会・文化等への影響を理論的に学ぶとともに、日本における外国人労働者の問題について考える。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、その日の授業テーマに関するニュースや新聞記事等を複数探して目を通しておく（2時間程度）。 事後学習として、その日の授業内容を復習しながらノートにまとめておく（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業の質問・コメント、小課題等はTeamsで受け付ける。質問や小課題の回答は次週の授業冒頭で紹介・フィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	(1)「個人と社会」の関係に関する3つの理論的立場の違いについて説明できる。 (2)現代社会におけるさまざまな現象や問題について、社会学的な見地から意見をまとめ論述できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験はTeamsを用いたWebテスト形式で実施する。「その他」は授業内で複数回実施する小課題の合計得点とする。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	指定しない	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内で適宜紹介する	
2		
3		
4		
5		